

平成 27 年 12 月 21 日

各 位

株式会社 三井住友銀行

日本郵船株式会社に「S M B C サステイナビリティ評価融資」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取：國部 毅）は、日本郵船株式会社（代表取締役社長：内藤 忠顕）に対し、「S M B C サステイナビリティ評価融資」を実施致しました。

「S M B C サステイナビリティ評価融資」は、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：瀧崎 正弘）が作成した独自の評価基準に基づき企業の ESG ¹側面の情報開示とサステイナビリティ ²への取組みなどを評価し、評価結果に応じた融資条件の設定を行うとともに、取組みや情報開示の適切さについての現状分析、今後の課題、課題への取組事例などを還元させていただく融資商品です。

今回の日本郵船株式会社に対する評価結果は、「事業活動における環境負荷削減の取組（気候変動）」、「従業員への配慮」、「企業統治体制」において非常に高い水準であると判断され、サステイナビリティに向けた企業経営において、大変優れた ESG 側面の取組と情報開示を実施されているとの評価になりました。

特に ESG 側面の取組では、2012 年からコンテナ船部門で始められた最適経済運航「IBIS」プロジェクトを、2013 年からは「IBIS-TWO」プロジェクトとして他の船種にも適用し、運航分野での CO2 排出量削減を推進するとともに、コスト削減を実現しておられる点、独自の安全運航推進活動「NAV9000」を導入し、乗組員や船主、船舶管理会社も含め、一体となって安全運航のための改善活動を促進しておられるほか、船員の人材育成や女性活躍推進を通じて、多様性を強みにする企業風土の醸成を進めておられる点、独立役員に指定された社外取締役を 2 名招聘されるなど、透明性の高い企業統治体制を築いておられるほか、取締役及び執行役員に女性を登用するなど、経営幹部への多様な人材登用を積極的に推進しておられる点等が評価され、情報開示においても良好な開示がなされているとの評価となりました。

なお、日本郵船株式会社に対する「S M B C サステイナビリティ評価融資」の実施は 2 回目となり、前回に引き続き最上位評価の取得となりました。また、前回の評価実施時から、更なる改善や新たな取組みを推進されております。

三井住友銀行では、「S M B C サステイナビリティ評価融資」により、企業のサステイナビリティへの取組みを、金融を通じて支援してまいります。



未来のコンセプトシップ「スーパーエコシップ」



日本初となる LNG 燃料タグボート「魁」



船上で安全訓練をする乗組員

<ご参考>

1 ESGとは

ESGとは環境（Environmental）、社会（Social）、企業統治（Corporate Governance）の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

2 サステナビリティとは

サステナビリティ（sustainability）とは、「持続可能性」を意味する英語であり、地球社会から企業活動まで、様々な状況において使用される用語です。一般的に、企業のサステナビリティというとき、地球環境や社会の持続的な発展に貢献しつつ、その上で自社が社会に認められ長期的に繁栄するために不可欠な企業の取組を指します。

以 上

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。